サヨナラ（1957）

SAYONARA

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 147分
初公開日 1957/12/20
公開情報 ＷＢ

【解説】

朝鮮戦争の撃墜王、少佐ロイド（ブランド）は、神戸の連絡部付となり来日。かつて彼の優秀な部下であった中尉ケリー（バトンズ）が日本女性カツミ（梅木）と結婚しようとするのを諌めるが、彼らの真剣さにうたれて、その立会人となる。彼には神戸駐在の将軍の娘の婚約者アイリーンがあったが、彼女は“さらってでも自分が好きなのか”と彼に詰め寄る。自身も大将の息子であるロイドにはその成り行きこそが当然という意識しかなかったからだ。着任早々顔を合わせた海兵隊大尉のマイク（ガーナー）もマツバヤシ歌劇団員フミコとの交際をとかく陰口されていた。彼と仲良くなったロイドは歌劇団の花形ハナオギを見初め、彼を通じて交際を始める。会うのはケリーの新居か田舎で、人目を忍んだものだった。一方、直属の上司に嫌われたケリーは、単身本国への転任を命ぜられるがそれを拒み、妻と心中する。劇団に恩のあるハナオギもロイドとの関係を諦めようとしたが、ロイドは退役も辞さぬ覚悟で彼女との結婚を決意するのだった……。

のっけからＲ・モンタルバン扮する歌舞伎役者ナカムラ（英語を解し、日米の架け橋的存在として登場）の化粧する姿にのけぞってしまうが、他はごくマトモに作られた、恐らくは日本を扱ったハリウッド映画では最も良心的な作品。バトンズ＝梅木（両人はオスカー助演賞に輝く）のスウィート・ホームの描写など、多分に憧れめいた雰囲気も感じるが、ごくリアルで、彼らとブランドたち４人で文楽を観る場面はそれぞれの心情を巧みに表わして感動的ですらある。宝塚を模した歌劇団のレビューも楽しく、うんざりするほどいわゆる“国辱映画”を観させられた身としては、大いに贔屓したくなる一本だった。バーリン作曲の主題歌も甘美。

【クレジット】

監督	ジョシュア・ローガン	Joshua Logan
製作	ウィリアム・ゲッツ	William Goetz
原作	ジェームズ・ミッチェナー	James Michener
脚本	ポール・オズボーン	Paul Osborn
撮影	エルスワース・フレデリックス	Ellsworth Fredericks
音楽	フランツ・ワックスマン	Franz Waxman
出演	マーロン・ブランド	Marlon Brando
	レッド・バトンズ	Red Buttons
	ナンシー梅木	Nancy Umeki
	高美以子	Miiko Taka
	リカルド・モンタルバン	Ricardo Montalban
	マーサ・スコット	Martha Scott
	ジェームズ・ガーナー	James Garner

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.